（様式１）

西邑楽高等学校　学校評価一覧表　①　（平成２５年度版）

羅針盤			方策	第１回 点検・評価			第２回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
Ⅰ　特色ある学校づくりを推進する。	1　学力向上を根幹とし、各学科（普通科、スポーツ科、芸術科）の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業（数学・英語）に85％以上の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85％以上の生徒が満足している。	・生徒の進路希望に対応した必修科目及び選択科目を用意し、適切な科目選択を指導する。 ・部活動連動型の授業・専門科の少人数指導を効果的に実施する。	A	A	・数学、英語の習熟度別少人数授業及びスポーツ科・芸術科の専門科目に対する満足度は高く、効果をあげている。形式、内容を各教科でさらに工夫し、充実を図る。			
	2　全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が［本年度の重点目標」、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。	・「羅針盤」の評価項目・具体的数値項目を４月中に全職員に周知し、自身の目標設定及び指導の指針とする。	B	－	・年間を通じて達成することができるよう、中間申告における検証を行い、必要に応じ軌道修正をする。			
	3　生徒の信頼に応える指導を基本とする。	・自分の学校を好きだと感じている生徒の割合は、80％以上である。	・積極的な生徒理解、信頼関係づくりに努め、激励し、サポートする。	A	A	・健全な学校生活をおくることができるよう、校内環境を整備する。			
Ⅱ　生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	4　基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができているという評価が７０％以上（教職員アンケートによる）、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒が１０名以下、遅刻指導該当者が年間１５名以下である。	・職員と生徒で共に考え、規律ある学校生活が送れるようにする。特に集会等や委員会での呼びかけを大切にする。また、登校時指導や日常においてあいさつを積極的に教職員も行っていく。	B	A	・服装頭髪指導の係指導者が２名、遅刻指導該当生徒が１１名と増加傾向にある。遅刻者については各学年の生活指導と個別の指導を行っていく。後期の遅刻を減少させるようにする。			
	5　交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を０にする。	・交通安全教室と年２回の自転車点検，交通安全だよりの発行等を通じて、生徒の交通安全意識の高揚を図る。	B	B	・現時点では重大事故は起こっておらず、事故件数も極めて少ない。しかし、傘差し等の危険運転も見られ、より一層の交通安全意識を持たせ、点検等も行っていく。			
	6　生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・蒼流祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が８５％以上である。	・準備段階から生徒会役員等とともに企画立案をして、生徒が主役となるような行事運営を進めていく。	A	A	・蒼流祭では実行委員や、生徒会本部役員が中心となり、生徒主体で準備、運営が出来た。引き続き、行事等の活動の充実を図る。			
	7　部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、７０％以上であり、充実していると感じている生徒が７０％以上である。	・部活動紹介や活動環境整備により、加入率の向上と充実した活動になるように努める。	A	B	・部活動加入率89.5％と多くの生徒が加入している。各部が充実した活動になるよう、環境整備を整える。ホームページでの紹介、報告も引き続き行い、校外へも発信をしていく。			
Ⅲ　生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	8　双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80％以上である。	・校長による授業観察、授業公開、教員相互の授業観察・授業研究を通じて授業改善を図る。	B	B	・研究授業や研修等を通して、生徒がより一層達成感や満足感を得られるような授業を工夫する。授業における言語活動の充実を図る。			
	9　授業時間を確保する。また、授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での１日の平均学習時間は、１・２年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級5名、準2級40名以上である。	・授業の予習復習を徹底させる。週末課題の状況を職員間で共有し組織的に指導に当たる。 ・英語検定に対する生徒の意識を高めるとともに、基礎的な英語力だけでなく応用力も育成する。	C C	C C	・家庭学習量はまだ目標に達しない生徒が多い。課題提出等の取組が向上したが、学習習慣の確立のため、さらに授業と家庭学習を工夫していく。 ・検定取得に対する意識がまだ低い。英語科だけでなく、組織的に生徒に働きかけることで、受験者を増やしていく。			
	10　継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に 12冊以上の本を読んでいる。	・原則毎朝実施の「朝の読書」、図書館オリエンテーション、ＬＨＲ読書会や推薦図書リストの発行などで読書への意欲を喚起する。	B	B	・朝読にお薦めの推薦図書リストを作成し読書意欲を喚起する。折に触れ様々な場を活用し本の話題に触れるよう心がける。			
Ⅳ　生徒に進路目標を達成させる。	11　自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。	・二者面談、三者面談を通じて、生徒一人ひとりの進路希望を把握するとともに、進路実現のための適切な情報提供を行う。	A	A	・面談や進路学習などが、進路について考える良いきっかけとなっているが、目標が家庭学習に結びついていない生徒が多い。学習の習慣を定着させるようにする。			
	12　進路指導に関する情報を共有し３年間を見通した系統的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。	・各学年にあった進路プログラムによる進路学習や行事を推進し、生徒が自らの目標を適切に設定できるようにする。	A	B	・進路行事の内容を吟味し、より効果的なものにしていく。保護者への進路情報提供を充実させ、家庭での進路に関する話し合いの手がかりとする。			
Ⅴ　生徒が心身ともに健康で安全な生活が送れるようにする。	13　生徒自ら健康の保持増進に努める姿勢確立のため自己管理に関する指導を進める。	・生徒の健康診断に基づく受診率50％以上。 ・熱中症やインフルエンザの予防に関する情報提供を適切に行う。	・健康管理に関する情報を発信し家庭と協力して取り組む。 ・月に１回の保健だよりによる情報提供。	A	A	・保健だよりの内容を工夫して興味を引く事項を掲載してゆくとともに情報として利用価値のあるものを伝える。			
	14　心身の健康問題を抱える生徒への適切な対応や指導を行う。	・不登校の生徒０を目指す。	・職員への情報提供や専門家によるカウンセリングを含め、組織的な相談体制を強化する。	B	B	・不登校気味の生徒に対して状況の把握と早めの対応をこころがける。			
	15　学びの場としての教室等の環境の整備･美化に努める。	・校舎校庭の清掃・美化に努める。	・月に１回実施の安全・美化点検簿を見直し、美化に取り組む。	A	A	・清掃担当の曖昧な場所をもう一度見直し細部まで手が行き届くようにする。			
Ⅵ　開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	16　保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・ＰＴＡ総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が５０％以上、後者が、８０％以上である。	・ＰＴＡ総会等の保護者あて通知が必ず保護者に届くよう保護者あてメールを活用する。保護者に対しての広報活動を徹底する。	B	B	・ＰＴＡ行事への参加は例年同様増加していない。ＰＴＡ行事の意義や魅力が保護者に伝わる広報活動を工夫する必要がある。			
	17　ｗｅｂページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のｗｅｂページを月２回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80％以上の参加者が答えている。	・学校行事を中心に校内の情報を広く発信し教育活動が理解しやすいように努める。	A	A	・ＨＰに掲載する内容を全職員に協力してもらい、充実させる。			
	18　校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。教科別の研究授業、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。	・定期的な服務規律だよりの配布を継続し啓発に努める。授業改善委員会を通し、教科別の研究授業を実施する。また、センター等校外における研修にも積極的な参加を図る。	B	－	・服務規律に係る校内研修を通じ、全職員で服務規律の確保について協議することにより意識の向上を図るとともに情報を積極的に提供し啓発を図る。授業改善についてｸﾞﾙｰﾌﾟ研究授業の実施等を通じ、個々の検証を行う。			